

部門別分科会（産科医療・小児医療）とりまとめ

奥能登公立 4 病院機能強化検討会（以下、検討会）では、新病院の整備に向けて議論が行われ、令和 8 年 1 月、県として「大きな方向性」を決定した。その後、奥能登 4 市町の関係者等から新病院での分娩実施に対する強い要望を受け、分娩の実施について、基本構想策定の中で議論するのではなく、早期に一定の結論を出すこととなった。

分娩については、命のリスクを伴う高度な医療行為であり、安全に実施できる体制を検討するには、専門的見地からの議論が不可欠であることから、専門家にも参加いただく当分科会において、安全な分娩実施体制の構築に向けてどのようなことができるか、専門家の知見をいただきながら議論を行った。

委員からいただいた様々な意見を踏まえ、当分科会として、下記のとおりとりまとめる。検討会では、これを参考に、議論を深められたい。

記

新病院での分娩を考える上で、まず、母子の安全を確保することが何よりも大切であり、医療リスクの最小化を目指すべきである。

分娩は、近年の産婦・新生児死亡事故を踏まえ、従来よりもさらに安全を重視し、避けられるリスクは徹底的に避けるべきとの考え方で行われており、時代に逆行することはあってはならない。特に、本県では、令和 3 年に起こった輪島市の事故を受けて設置した赤ちゃん協議会において、産科医は複数配置が必要との指摘がなされたところでもある。

ローリスクが予想される場合であっても、緊急帝王切開など、予測できない事態が起こっており、「ローリスク限定の分娩実施」は、医療リスクの最小化を目指すことと

相容れない。このことを念頭に置けば、分娩は、24 時間 365 日体制で対応する必要があり、また、医師等に過酷な勤務を強いることは危険かつ不適切であることから、交代制勤務に対応できる相当数の医師（産科医、麻酔科医、小児科医）、助産師等による体制を確保することが必要である。

分娩数が限られる奥能登において、こうした体制を確保することは、現在の医療従事者の状況を踏まえると極めて厳しいと言わざるを得ない。このことから、妊娠から分娩、産後のケアなどについて、安全かつ安心を提供するためには、検討会で提案された、妊婦健診や産後ケアなどを奥能登地域の身近な病院で実施し、分娩に限って医療体制や設備が整った七尾市や金沢市などの病院で行うといった連携体制（セミオープンシステム）を用いた「ワンホスピタル体制」を構築することが適当である。（この体制は、産前産後を通して、分娩の時以外は自宅で過ごせるものであり、類似の体制は、既に人口減少問題を抱える他の地域でも実施され、安全な周産期医療体制として評価されているものである。）

その上で、「通院等のための長距離移動は負担」といった住民の声に応えるため、妊婦や家族の負担軽減策（例：オンライン健診、事前宿泊制度の充実、長子の預かり制度等）、救急搬送体制の充実、ドクターカーや医療 DX の活用、妊婦健診の受診環境の整備など、あらゆる支援策の拡充を各種のデータ分析・調査を実施したうえで検討し、安全であることに加え、さらなる安心を与えることができる仕組みとしていくことが必要である。

なお、新病院の開院までには、6・7 年程度を要するとされているところであり、こうした支援策については、新病院の開院を待つことなく 4 病院等においても検討し、可能なものから速やかに対応していく必要がある。

この体制により、安全で安心な周産期医療環境が確保できると考えるが、一方、公立の病院として、住民の「地元で分娩したい」との願いに応える努力も必要である。

例えば、県では、産科医をはじめとする医療従事者の確保策を国に要望しているところであるが、こうした対応策を引き続き検討するなど、奥能登での分娩実施の環境整備に向けて、様々な可能性を探り続けていく必要がある。併せて、分娩に対応できるようなハード面での対応も検討されたい。

最後に、周産期医療に限らず、奥能登で持続可能な医療提供体制を構築するためには、能登半島地震や奥能登豪雨からの創造的復興と切り離すことはできず、医療分野のみならず、なりわいの再建・創出や教育の振興、関係人口の創出・拡大など、あらゆる方面から、県と市町がともに連携して、奥能登の活性化を図るべきである。

**奥能登公立4病院機能強化検討会・部門別分科会（産科医療・小児医療）
委員名簿**

所属・役職	氏名
金沢大学能登里山里海未来創造センター長	谷内江 昭宏
金沢医科大学能登北部地域医療研究所長	中橋 毅
石川県立中央病院長	岡田 俊英
市立輪島病院長	田中 佐一良
市立輪島病院 看護部長	森川 好美
市立輪島病院 事務長	刀祢 有司
珠洲市総合病院長	浜田 秀剛
珠洲市総合病院 看護部長	舟木 優子
珠洲市総合病院 経営戦略室長	岸田 和久
公立穴水総合病院長	島中 公志
公立穴水総合病院 看護部長	松井 真智子
公立穴水総合病院 事務局長	橋本 真
公立宇出津総合病院長	野島 直巳
公立宇出津総合病院 総看護師長	宗田 まゆみ
公立宇出津総合病院 事務局長	西谷 幸一
石川県立中央病院 総合母子医療センター長	佐々木 博正
金沢大学 小児科教授	和田 泰三
金沢大学 産科婦人科教授	安彦 郁
金沢医科大学 産科婦人科教授	高倉 正博
金沢医科大学 小児科教授	伊川 泰広
公立能登総合病院 産婦人科部長	富澤 英樹
公立能登総合病院 小児科部長	池野 郁
恵寿総合病院長	鎌田 徹
輪島市副市長	中前 豊
珠洲市副市長	金田 直之
穴水町副町長	宮崎 高裕
能登町副町長	野口 隆